

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

|                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------|
| 校訓 誠実・明朗                                                                  |
| めざす学校像                                                                    |
| 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）                                      |
| 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）                                           |
| 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり） |
| 育てたい生徒像 “3つのC”                                                            |
| ○ 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間                                   |
| ○ 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間              |
| ○ チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間              |

2 中期的目標

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 教育力の向上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| （1）教育課程に基づいた教育活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ア 学習指導要領に基づく学習指導、学習状況評価をより一層適切に行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| （2）確かな学力の育成                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ア 基礎学力を身につけるための山田 BT（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）の在り方を再構築する。<br>※BT アンケートにおける満足度や参加度に関して肯定的回答 80%をめざす。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| イ 授業での取組み及び山田 BT 等により、自主的学習の基盤である自学自習の時間を増加させる。<br>※自学自習の時間が 0 分の割合を令和 9 年度には 7%未満とする（BT アンケートより R 4：14%, R 5：12%, R 6：17.5%）。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ウ 「論理・表現Ⅰ」及び「英文法発展」の授業において習熟度別授業を実施する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| エ 教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。<br>※図書館の利用人数を令和 9 年度には 4000 人以上とする。（R 4：3068 人, R 5：3357 人, R 6：4139 人）                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| オ 総合的な探究の時間で活用するプログラムを刷新し、今まで以上に主体的な探究活動を推進する。また教科等横断的な取り組みにも接続できるように努める。<br>※事後アンケートにおける満足度や参加度に関しての肯定的回答 80%をめざす。                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| （3）授業力の向上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ア 授業充実 PT を核に全教科で「ICT を活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして、校内の ICT 環境（電子黒板・1 人 1 台端末）を活用する授業研究を推進し、効率的な授業を行う。また、研究授業、公開授業等で情報共有を行う。<br>生徒自らが考える授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能・思考・判断・表現）の向上を図る。<br>※研究授業・公開授業の実施回数を、令和 9 年度まで引き続き年間 10 回以上とする。（R 4：10 回, R 5：14 回, R 6：10 回）<br>※授業アンケートにおける「7：思考力・表現力が身についた」の平均値 3.4 以上を維持する。（R 5：3.31 R 6：3.34）<br>※授業アンケートにおける「8,9：興味関心、知識技能が身についた」の平均値 3.4 以上を維持する。（R 5：3.34 R 6：3.37） |
| イ 校外研修の活用を進める。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| ウ 希望進路を実現する。<br>※令和 9 年度まで、国公立大、関関同立大合格者数 150 人以上を維持する。（R 4 164 人（9 クラス）, R 5 225 人（8 クラス）, R 6 242 人（9 クラス））                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| （4）3 年間を見通したキャリア教育                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ア 大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。<br>※進路説明会・補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| イ 同窓会や地域の企業・団体と連携したキャリア教育を実施する。<br>※卒業生によるキャリア講演会を年 1 回実施する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| （5）グローバル人材の育成                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ア 姉妹校である Bentleigh secondary college 等との交流を深め、英語を用いたコミュニケーション力を育成する。<br>※今年度は現地を訪問し研修を行う。今後も隔年で現地訪問を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| イ イングリッシュカフェ等、英語でコミュニケーションする場を設ける。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| （1）部活動や特別活動を通じ、生徒の自尊感情を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越える力を育成する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ア 部活動加入率を、令和 9 年度には 87%以上をめざす。（R 4：85.0%, R 5：85.6%, R 6：85.6%）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| イ 修学旅行を通じ、生徒の非認知的な力を伸ばす。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| （2）生徒会活動の活性化                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| イ 学校生活における自治意識を高める。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| （3）生徒指導を進める                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ア 遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。遅刻指導をより一層浸透させるため保護者の協力を得る。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| イ 交通安全指導を継続する。警察・地元自治体・PTA と連携した企画を立案し実行する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| （4）校内美化の推進                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| （5）人権尊重の教育の推進                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| （6）安全で安心な学びの場づくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| イ 教育相談・支援教育の充実：定期的なアンケート調査で生徒の状況把握に努め、生徒支援の充実を図る。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ウ 食物アレルギー、個別の課題への対応を進めることで、安全で安心な教育環境を作る。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| （7）自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒める場を作る。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ア 始業式・終業式等で、部活動の成果等を伝達表彰する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>イ HR・学年集会・授業等で、生徒の成長に資する取り組みを進める。</div> <div>3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり</div> <div>(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。<div>ア 各種会議、各学年の連携、組織的な対応がスムーズにいくようにする。</div><div>イ 安全衛生委員会の活性化等により、働き方改革を図る。<div>※時間外在校等時間月 80 時間以上の年間延べ人数を令和 9 年度には 25 人以下とする。(R 4 :23 人,R 5 :44 人, R 6 :30 人)</div></div><div>ウ 部活動方針を徹底し、部活動の在り方に係る適切な体制を構築することで、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。<div>※年間平均時間外在校等時間 28 時間以内をめざす。(R 6 :29. 0)</div></div><div>(2) 保護者・地域との連携<div>ア 地域の行事へ積極的に参加し、地域連携を深める。</div><div>イ PTA との連携により、生徒の成長を促進する。</div></div><div>(3) 教育活動の情報発信<div>ア 教育活動の情報発信について、全校的に取り組む。</div><div>イ ホームページ（校長通信を含む）、メールマガジン、学習支援クラウドサービスによりタイムリーな情報発信に努める。</div></div></div> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析〔令和 7 年 12 月実施分〕                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 学校運営協議会からの意見                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <div>今年度の回収率は教職員 87.7%、生徒 95.3%、保護者 72.1%と昨年比では少し減少しているが、過年度と比較して高回収率となっておりより精度の高い数値が出ていると捉えている。</div> <div>まず生徒に関して述べる。授業や学習指導に関する項目では、すべての項目で肯定的な回答が 75%を超えており、本校の授業や学習指導は、生徒から一定の評価を得ていると考えられる。また、進路指導に関する項目では、すべての項目において 90%以上が肯定的な回答となっており、生徒の進路指導に対する満足度は非常に高い。この結果から、本校の進路指導体制や情報提供、個別対応は、生徒のニーズに適切に応えられていると評価できる。次に保護者に関して考察する。授業や学習指導に関しては、ICT の活用や評価の公平性について、75%以上が肯定的な回答を示しており、授業運営や成績評価の透明性については、一定の理解と評価が得られていると考えられる。しかしながら、授業の「わかりやすさ」や「楽しさ」、および自宅学習に関する項目では、否定的な回答がそれぞれ 36.0%、48.4%と高い割合を占めており、保護者の満足度は必ずしも十分とは言えない。この背景として、生徒が家庭において学校での学習内容や学習状況を十分に共有できていないことや、自宅学習の取組が可視化されにくいことが影響していると考えられる。また、授業中の学びの工夫や生徒の主体的な活動が、家庭に十分伝わっていない可能性も示唆される。これらを改善するため今後の取組として、次の 3 つを掲げる。1 つめは授業における学習目標や活動内容を明確にし、「わかりやすさ」や「学びの実感」を高める工夫を行う。2 つめは自宅学習の質・量の両面を見直し、生徒が計画的に学習に取り組める指導体制を構築する。3 つめとして家庭と学校の連携を強化し、2 つめに掲げた“自宅学習の取組が保護者にも伝わる仕組み”を整えることに取り組む。これらの改善を通して、生徒・保護者双方の満足度向上を図り、本校の教育活動のさらなる充実につなげていく所存である。最後に教職員に関して述べる。昨年度以上に教職員による評価が厳しいものとなっている。これらの数字が表すもの真摯に受け止め、必要に応じて関係の教職員に面談し、意見を組み上げるよう努めたい。今回の結果に怯むことなく、可能な限りの施策を講じより良い学校組織を築いていく所存である。</div> | <div>第 1 回（令和 7 年 7 月 15 日）<br/>（質問）総合的な探究の時間における改革とは具体的にどのようなものか？<br/>→昨年 1 年かけてこれまで実践してきたものをブラッシュアップした。今年はその完成形として 3 年次のプログラムを改変した。また、2 年次に行う地域連携の PBL では新たな提携先を開拓し、また少人数展開を行い、きめ細かく対応できるように制度設計した。育成したい力を明確に生徒に示し、担当教職員もそれを意識し取り組んでいる。<br/>（意見）授業改善について<br/>→「教えたから分かっているのではなく、どうすれば生徒に伝わるかを考えた授業をすべき」や「学ぶ楽しさを身に付けさせることが重要」などのご意見を賜った。<br/>（その他）小中高連携について<br/>→焦らずに少しずつ推進していくことで合意した。</div> <div>第 2 回（令和 7 年 11 月 21 日）<br/>（要望）授業見学より<br/>→素晴らしい授業を拝見させていただきました。是非保護者や卒業生に対象に特別授業を実施して欲しい。<br/>（提案）学校教育自己診断の項目<br/>→1 部項目の修正に関するご意見をいただいたので、それを受けて修正した。<br/>（要望）大阪教育ゆめ基金の活用を学校経営計画に入れて、卒業生からの支援が集まる機会を作って欲しい。</div> <div>第 3 回（令和 8 年 2 月 9 日）<br/>（意見）学校教育自己診断の教員の結果はシビアだが、意見を言うことのできる環境ともいえるのでは。学校は、生徒が主役であり、生徒の意見が反映される学校であってほしい。今春より自転車の交通ルールが法律が厳格化するので、地域等と協力し啓発活動を行っていただき、そこで校長のリーダーシップを発揮していただきたい。</div> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標       | 今年度の重点目標           | 具体的な取組計画・内容                                                                                  | 評価指標[R 6 年度値]                                                                                     | 自己評価                                                                                   |
|-------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>教育力の向上 | (1) 新教育課程に基づいた教育活動 | ア・新学習指導要領に基づく学習状況評価をより一層適切に行う。大学より専門家を招聘し研修を開催する。                                            | ア・学校教育自己診断(生徒)における学習評価の肯定的回答 90%以上の維持。[93.7%]<br>・研修は 1 回開催し事後アンケートにおける満足度に関しての肯定的回答 80%をめざす。[新規] | ア・学校教育自己診断（以下診断）学習評価の肯定的回答は 91.9%（○）。研修後のアンケートの肯定的回答 50%（△）。次年度も研修を継続実施する。             |
|             | (2) 確かな学力の育成       | ア・BT を再構築し、年度末の BT アンケートにおける満足度及び参加の度合いを高める<br>イ・授業での取組み及び BT 等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 | ア・BT アンケートにおいて満足度や参加度に関しての肯定的回答 80%をめざす。[新規]<br>イ・アンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合 10%以下。[17.5%]       | ア・アンケートの肯定的回答 76.6%（△）。更なるブラッシュアップをめざす。<br>イ・アンケート結果は 24%（△）。授業改善により自学自習する生徒の割合をより高める。 |

府立山田高等学校

|                           |                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                           | <p>(3) 授業力の向上</p>                                                                                                                                                       | <p>ウ・教科指導で図書館利用を促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。</p> <p>エ・新たに開発した総合的な探究の時間のプログラムを通して主体的な探究活動を推進する。</p> <p>ア・ICTを活用した授業・生徒主体の授業」をテーマとして、校内のICT環境を活用する授業研究を推進し、効率的な授業を行う。決してICTを使うことが目的とならないよう留意する。また、研究授業、公開授業等で情報共有を行う。今年度は公開対象に近隣の中学校も含む。同時に、近隣中学校の授業を見学する機会を設ける。</p>                                                                                                                                             | <p>ウ・利用を促進し年間の利用者数 3000 人以上を維持する。[4139 人]</p> <p>・貸出冊数 600 冊以上の維持。[896 冊]</p> <p>エ・事後アンケートにおいて満足度に関する肯定的回答 80%をめざす。[新規]</p> <p>ア・ICT（電子黒板・1 人 1 台端末）を効果的に活用した授業実践を継続する。学校教育自己診断の「ICT 機器の活用」の肯定的回答について、教員・生徒とも 85%以上を維持。[教員 98.1%、生徒 99%]</p> <p>・学校教育自己診断（教員）の「学習形態の工夫・改善」の項目で 85%以上を維持。[90%]</p> <p>・研究授業・公開授業を年間 10 回以上実施する。[13 回]</p> <p>・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均値 3.3 以上を維持。[3.34]</p> <p>・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均値 3.3 以上を維持。[3.37]</p> <p>イ・校外研修への参加者 50 人以上。[40 人]</p> <p>ウ・国公立大学、難関私立大合格者数を維持する。[242 名]</p>                                                                                                                             | <p>ウ・年間利用者数 5382 人（○）。貸出冊数は 1018 冊（○）。</p> <p>エ・アンケートの肯定的回答 82%（○）。提携先の開拓に努める。</p> <p>ア・診断の左記項目、教員 98.3% 生徒 96.1%（○）。今後は ICT 機器の有効活用により一層焦点を当てていく</p> <p>・診断の左記項目 86%（○）。随時話し合う機会を設けていく。</p> <p>・公開回数 10 回（○）。小中高連携も推進する。</p> <p>・アンケートの平均値 3.16（△）。</p> <p>・アンケートの平均値 3.20（△）。</p> <p>イ・研修参加者 25 人（△）。</p> <p>ウ・難関大学合格者数 224 人（△）。</p> <p>ア・左記行事实施回数 9 回（○）。</p> <p>イ・左記行事回数 3 回（○）。今後も継続に努める。</p> <p>ア・アンケートの肯定的回答 92%（◎）。国際理解教育は合計 4 回実施。第 2 姉妹校も締結。更なる交流を推進する。</p> <p>イ・イングリッシュカフェは 2 回実施（○）。</p> |
| <p>2 豊かでたくましい人間力のはぐくみ</p> | <p>(1) 部活動や特別活動を通じた豊かでたくましい人間性の育成</p> <p>(2) 生徒会活動の活性化</p> <p>(3) 生徒指導を進める</p> <p>(4) 校内美化の推進</p> <p>(5) 人権尊重の教育の推進</p> <p>(6) 安全で安心な学びの場づくり</p> <p>(7) 生徒の成長の場を作る。</p> | <p>ア・部活動への積極的な参加を促す。</p> <p>イ・修学旅行を通し、生徒の非認知的な力を伸ばす。</p> <p>ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。</p> <p>イ・学校生活における自治意識を高める。</p> <p>ア・遅刻指導、服装・頭髪指導を継続する。特に長期休業あけの指導を強化する。</p> <p>イ・交通安全指導を継続する。警察・保護者、地域等と連携しながら、教員・生徒会による登校指導を実施する。</p> <p>ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。</p> <p>ア・生徒が様々な立場の人々の人権を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。</p> <p>ア・いじめを許さない体制作り</p> <p>イ・教育相談・支援教育の充実</p> <p>ウ・安全で安心な教育環境を作る。</p> <p>ア・生徒の成長に資する取り組みを進める。</p> | <p>ア・部活動加入率 86%をめざす。[85.6%]</p> <p>イ・修学旅行後のアンケートでの満足度 95%以上の維持。[98.7%]</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)における体育祭・文化祭に対する肯定的回答 90%以上の維持。[94.4%]</p> <p>イ・生徒会執行部発信の取組みを 3 回以上実施。[2 回]</p> <p>ア・遅刻総数前年度より減少させる。[1085 人]</p> <p>・服装・頭髪違反者なし</p> <p>イ・地域等と連携した登校指導を 1 回以上実施 [0 回]</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)における学校規律に関する質問での肯定的回答 90%以上の維持。[95.5%]</p> <p>ア・トイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化に努めるとともに 毎日の清掃活動を徹底する。</p> <p>・終業式後等に一斉大清掃を年 3 回以上行う。[3 回]</p> <p>ア・人権研修を年 1 回以上実施する。[1 回]</p> <p>・生徒の理解の状況を学校教育自己診断関連項目において肯定的回答 90%以上を維持。[92.1%]</p> <p>ア・いじめ事案の未然防止、生徒対応ができたか。</p> <p>イ・生徒個々の状況に的確に対応できたか。</p> <p>ウ・校内での重大事故を無くす。[0 件]</p> <p>ア・学年独自の取組みとして 1 年対象の仲間づくり HR を 1 回実施。[新規]</p> | <p>ア・加入率 88.9%（○）。</p> <p>イ・満足度 97.4%（○）。</p> <p>ア・満足度 89.9%（○）。</p> <p>イ・4 回実施（○）。生徒自治の意識改革をさらに推進したい。</p> <p>ア・遅刻総数 1191 人（△）。</p> <p>・各指導を引き続き行う。</p> <p>イ・登校指導 0 回（△）。次年度に向けて地域と協議する。</p> <p>・診断左記項目 88.7%（△）。厳格な指導への反発と認識。指導方法を精査し指導継続する。</p> <p>ア・徹底された。（○）</p> <p>・大掃除は 3 回実施（○）。</p> <p>ア・1 回実施（○）。</p> <p>・診断左記項目 89.7%（○）。</p> <p>ア・適切に行えた。（○）</p> <p>イ・適切に行えた。（○）</p> <p>ウ・重大事故は 0 件（○）。</p> <p>ア・仲間づくり HR を 1 回実施（○）。今後も内容精査して継続。</p>                                                      |

府立山田高等学校

|                                                                                             |                                                 |                                                                                                |                                                                                                                                                                     |                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3<br>学<br>校<br>の<br>組<br>織<br>力<br>向<br>上<br>と<br>開<br>か<br>れ<br>た<br>学<br>校<br>づ<br>く<br>り | (1) 組織力向上：常に学<br>校組織の見直しを図り、<br>組織の活性化を推進す<br>る | ア・各種会議、各学年の連携、引継ぎがスム<br>ーズにいくようにする。<br><br>イ・部活動方針の遵守や安全衛生委員会の活<br>性化により働き方改革を図り教員の負感<br>を減らす。 | ア・学校運営についての連携に努め、学校教育<br>自己診断(教員)の連携項目 75%以上をめ<br>ざす。[72. 5%]<br><br>イ・ストレスチェックの健康リスク 95 以下を<br>めざす。[97]<br><br>・時間外在校等時間月 80 時間以上の教職員<br>延べ人数 26 人以下をめざす。[延べ 30 人] | ア・診断左記項目 70. 2% (△)。<br><br><br><br>イ・健康リスクは 103 (△)。<br><br>・左記に該当する教職員延べ人<br>数は 1 人 (○)。                |
|                                                                                             | (2) 保護者・地域との連<br>携                              | ア・地域の行事を精選した上で、積極的に参<br>加し、地域連携を深める。<br><br><br><br>イ・PTA との連携により、生徒の成長を促進<br>する。              | ア・地域教育協議会、地域行事への教員・PTA・<br>生徒の参加 10 回以上を維持。[10 回]<br>・学校行事への地域からの参加者 20 名以上<br>をめざす。[15 名]<br><br>イ・PTA と連携した行事を 5 回以上実施し、PTA<br>が各種行事の受付等を担当する。[ 3 回]              | ア・参加回数は 10 回 (○)。<br><br>・本校主催の地域清掃への参加<br>は 12 名 (△)。周知の方法を検討<br>し次年度参加者増をめざす。<br><br>イ・左記行事は 6 回実施 (○)。 |
|                                                                                             | (3) 教育活動の情報発信                                   | ア・教育活動の情報発信について、総務部を<br>中心に全校的に取り組む。<br>イ・ホームページ、メールマガジン、学習支<br>援クラウドサービスによりタイムリー<br>な情報発信に努める | ア・学校説明会後のアンケートでの満足度 90%<br>以上維持。 [98%]<br>イ・学校教育自己診断の連携、情報提供の項目<br>が 80%以上を維持。[82. 5%]                                                                              | ア・満足度は 96. 4% (○)。<br><br><br>イ・診断の左記項目肯定的回答は<br>80. 9% (○)。                                              |